

宮本常一講演選集

全8巻
刊行中

田村善次郎編、四六判、上製、平均310頁 ●各2940円、揃価23520円
民俗学の「歩く巨人」は、語りの名人でもあった
聴衆を笑わせ、時に叱りつける、地域振興への熱き思い。
「地域の文化」を、いかに継承・発展させていくか。

昭和30～50年代、宮本が各地で行った講演講義をテーマ別に編成。311後、誰もが暮らした根、地域の絆の再興を模索している今、その言葉が新たな力をもつて迫ってくる。

【推薦します】
永六輔 放送タレント
池澤夏樹 作家
田中優子 法政大学教授



【新刊】2 日本人の知恵再考
稲育種、農具の工夫、補と樽の再利用、石垣普請……。民衆自身による技術革新の歴史に、生活に根を下ろす本當の知恵の力を見る。
●2940円

1 民衆の生活文化
荳皮纖維利用の視点から食と衣と紙をダイナミックにつなぎ、その生活文化が日本の柔構造社会を生み出したとする講義等を収録。
●2940円



続刊 隔月刊行予定

- 3 都会文化と農村文化
- 4 郷土を見るまなざし 離島を中心に
- 5 旅と観光 移動する民衆
- 6 日本文化の形成 講義Ⅰ
- 7 日本文化の形成 講義Ⅱ
- 8 日本人の歩いてきた道

世界遺産の原像



日本の食生活全集
全50巻 都道府県別編集 A5判 ●各2900円、揃価145000円
日本人の伝統的食生活に関する質量ともに最大の記録集(石毛直道氏) 和食の原形は郷土食

昭和初期、洋風化が進む以前の郷土食を、全国5千人のお年寄りからの聞き書きと再現写真で記録。食材の種類、入手法や、四季の朝昼晩の献立を、暮らしの物語とともに記録。
47都道府県版あります
それぞれ「北海道の食事」「京都の食事」といったタイトルで都道府県ごとに1冊に。「アイヌの食事」と索引巻を加え全50巻。

富士山は里山である
農がつくる
山麓の風土と景観

中山正典著 山頂へ至る美しい姿形のみが注目される富士山だが、山麓は豊かな里山空間を成している。農の営みが作り出した世界遺産のもう一つの景観を、豊富な写真から読み解く。
●2520円

